



2022年3月期 決算補足説明資料

2022年5月



株式会社カクヤスグループ
証券コード：7686

お客様のご要望に「なんでも」応えたい



はじめに (1)

■ 2022年3月期 事業会社別 売上構成比

決算期は事業会社ごとに以下の通りです。

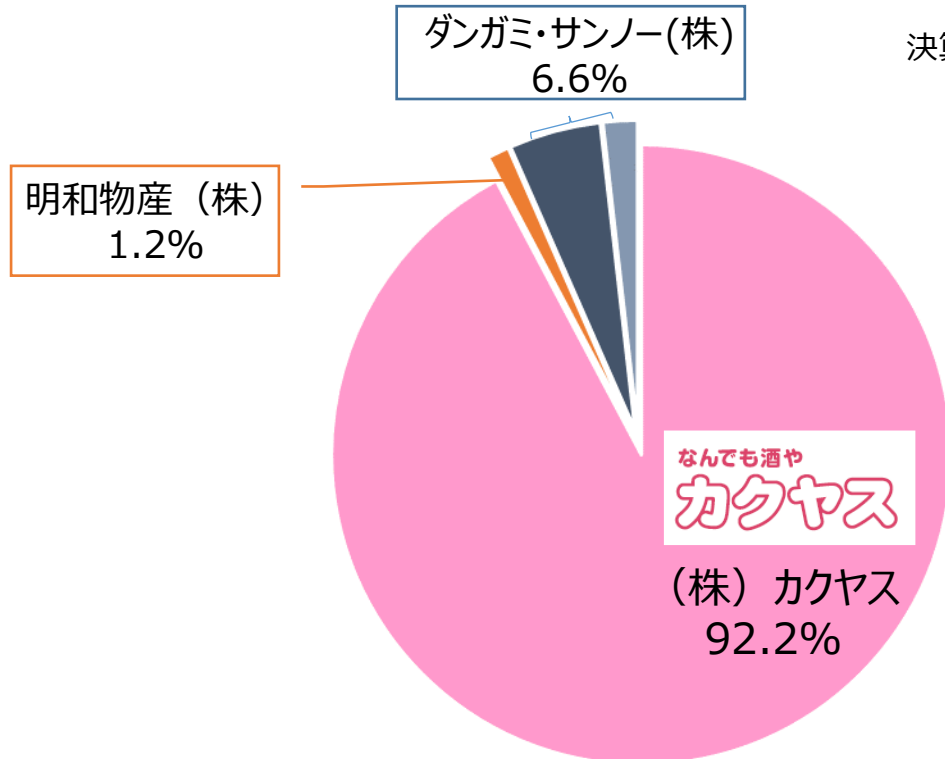
(図表は、各事業会社の売上を単純合算したものです)

・株式会社カクヤス	3月 (2021.04~2022.03)
・サンノー株式会社	2月 (2021.03~2022.02)
・株式会社ダンガミ	1月 (2021.02~2022.01)
・明和物産株式会社	12月 (2021.01~2021.12)

2022.03合併



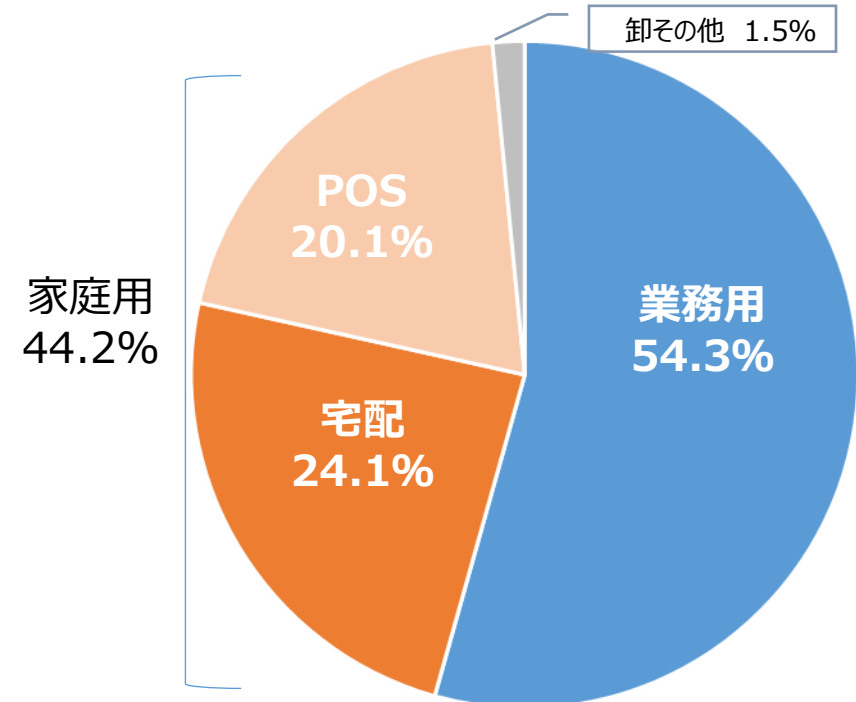
ダンガミ・サンノー
株式会社
決算月 | 1月



■ 2022年3月期 売上区分別 売上構成比

当社グループは酒類販売事業の単一セグメントですが、売上高を以下の4つに区分しております。

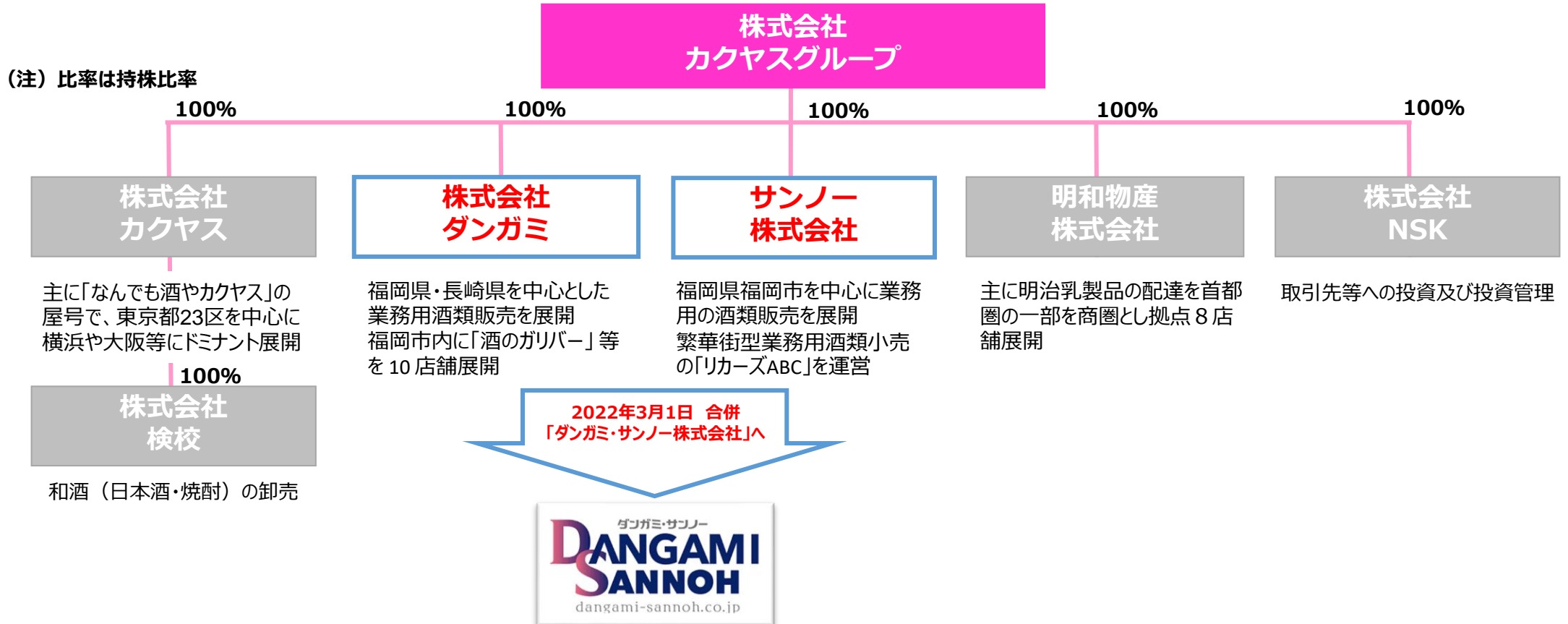
- ①「業務用」は主に飲食店への販売
- ②「家庭用：宅配」は一般のご家庭やオフィス等への配達
- ③「家庭用：POS」は主に店舗に来店頂いたお客様への販売
- ④「卸その他」は、主に同業の酒販事業者への卸売り販売
また、明和物産社での販売を計上しております。



はじめに（2）

■ 2022年3月1日 連結子会社を合併し、商号を「ダンガミ・サンノー株式会社」へ変更いたしました。

福岡を基盤とする「サンノー株式会社」と「株式会社ダンガミ」を連結子会社間の経営資源の集中と組織運営の強化、および効率化を図るために合併致しました。



1. 2022年3月期 決算概要

2. 2022年3月期 事業報告 (新型コロナウイルスの業務用売上への影響)

3. 今後について

1. 2022年3月期 決算概要

連結 損益計算書 前期比較

(単位：百万円)

科目名	2021年 3月期	2022年 3月期	増減額	増減率
売上高	80,226	85,514	5,287	6.6%
	-	-		
売上総利益	16,850	18,225	1,375	8.2%
	21.0%	21.3%		0.3pt
販売費および 一般管理費	19,452	21,553	2,101	10.8%
	24.2%	25.2%		1.0pt
営業利益（損失）	△2,602	△3,328	△726	—
	-	—		
経常利益（損失）	△1,728	△2,898	△1,169	—
	-	—		
親会社株主に帰属する 当期純利益（損失）	△1,601	△2,808	△1,207	—
	-	—		

1. 2022年3月期 決算概要

売上区分別の連結売上高 前期比較

(単位：百万円)

区分	2021年 3月期	2022年 3月期	増減額	増減率
業務	42,593	46,455	3,862	9.1%
宅配	19,545	20,631	1,085	5.6%
POS (POSレジでの取引売上)	17,825	17,128	△696	△3.9%
卸等	262	1,298	1,035	394.4%
計	80,226	85,514	5,287	6.6%

■業務

客数：105.7% / 客単価：103.2%

【参考】

ダンガミ・サンノー社売上（前期 | 1,607百万円、当期 | 約5,642百万円）

2021年3月期に子会社化した九州2社の影響を除きますと、売上高は前年比0.6%増で同水準でした。客数については、上半期の緊急事態宣言時の落ち込みが大きく、結果通年で減少したものの、客単価につきましては11、12月頃に一時的に客単価の回復があり、通期でも若干の回復となりました。

■宅配

客数：108.9% / 客単価：96.9%

ネット会員数は、主に個人向けのお客様を対象に好調を維持しておりますが、コロナ禍で高単価な大人数での注文も減ったことで客単価は前年を下回りました。

■POS

客数：94.7% / 客単価：101.5%

前年の緊急事態宣言下で食品、備蓄品を目的とした来客が急増していたことと比較すると顧客数は前年を下回り、客単価は前年と同水準となりました。

■卸等

前年に完全子会社化した明和物産社の実績を取り込んだことで伸長しました。

【参考：明和物産社売上 | 約988百万】

<参考 | クォーター毎 売上区分別客数・単価推移 前期比較>

売上区分	客数・単価	2021.04~06	2021.07~09	2021.10~12	2022.01~03	2022.03期
		1Q	2Q	3Q	4Q	累計期間
(業務)	客数	110.5%	85.6%	109.6%	119.3%	105.7%
	客単	123.8%	75.4%	107.0%	117.3%	103.2%
(宅配)	客数	100.5%	116.9%	112.9%	105.8%	108.9%
	客単	99.7%	94.8%	98.1%	94.9%	96.9%
(POS)	客数	86.1%	98.7%	100.7%	95.1%	94.7%
	客単	100.0%	99.8%	102.5%	103.5%	101.5%

1. 2022年3月期 決算概要

販売管理費 前期比較（主要な増減科目）

（単位：百万円）

	2021年 3月期	2022年 3月期	増減額	増減率
人的コスト	11,889	13,176	1,286	10.8%
役員報酬	181	149	△31	△17.5%
給与及び手当	9,152	10,192	1,040	11.4%
法定福利費	1,417	1,499	82	5.8%
配送費	396	472	75	19.1%
マーケティングコスト	991	1,126	135	13.6%
広告宣伝費	82	449	366	441.9%
販売促進費	505	236	△268	△53.2%
その他コスト	6,571	7,250	679	10.3%
のれん償却費	52	159	107	203.3%
リース料	280	397	116	41.6%
賃借料	2,461	2,552	91	3.7%
消耗品費	273	364	91	33.4%
販売費及び一般管理費	19,452	21,553	2,101	10.8%

全体で2,101百万円の増加

（主要な項目 単位：百万円）

<増加した主なコスト>

■ M&Aした子会社の人件費や、諸経費 約1,494百万円

■ 給与及び手当、法定福利費等

- ・子会社3社のM&Aによる増加 935
- ・（カクヤス社）営業体制維持による給与増加 273
 - └ 前期、コロナ禍を休業等対応

■ 広告宣伝費

- ・（カクヤス社）テレビCMに係る広告宣伝費等 355
- ・子会社3社のM&Aによる増加 10

■ 販売促進費

- ・子会社3社のM&Aによる増加 71

■ その他コスト

- ・子会社3社のM&Aによる増加
- └ のれん償却費 107
- └ 賃借料、リース料、消耗品費等 477

<減少した主なコスト>

■ 販売促進費

- └ 収益認識基準の対応(売上高控除) △344

1. 2022年3月期 決算概要

営業利益以下 前期比較

(単位：百万円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	増減額	増減率
営業利益（損益）	△2,602	△3,328	△726	—
営業外収益	922	525	△396	43.0%
営業外費用	49	96	47	96.1%
経常利益（損益）	△1,728	△2,898	△1,169	—
特別利益	4	76	71	1514.4%
特別損失	164	278	113	69.3%
税引前利益	△1,888	△3,100	△1,211	—
法人税等合計	△287	△291	4	—
当期純利益	△1,601	△2,808	△1,207	—

（主要な増減項目 単位：百万円）

【営業外収益】

- コロナによる補助金等（雇用調整助成金） △367
（参考：前期804-当期436）

【営業外費用】

- 支払利息の増加 19
- 第三者割当増資による新株発行費 9

【特別利益】

- 投資有価証券売却益 71

【特別損失】

- 減損損失 135
→ カケヤス店舗の固定資産、評価見直し
（参考：前期98-当期233）

1. 2022年3月期 決算概要

連結 貸借対照表（主要な増減項目）

（単位：百万円）

資産の部	2021年 3月期	2022年 3月期	増減額
流動資産	13,733	15,540	1,807
現金及び預金	2,525	2,748	223
受取手形 及び売掛金	4,745	5,586	841
商品	3,610	4,274	664
固定資産	13,260	13,000	△260
有形固定資産	6,732	7,160	428
建物及び構築物	3,516	3,887	371
無形固定資産	2,357	2,050	△306
のれん	1,485	1,325	△159
リース資産	203	39	△163
投資その他の資産	4,171	3,789	△381
資産合計	26,994	28,541	1,547

負債の部	2021年 3月期	2022年 3月期	増減額
流動負債	18,535	21,224	2,688
買掛金	10,079	11,393	1,313
短期借入金	5,614	7,645	2,031
リース債務	164	35	△129
その他	2,278	1,720	△557
固定負債	5,246	5,009	△236
長期借入金	4,166	4,080	△85
リース債務	39	3	△35
負債合計	23,781	26,233	2,452
資本金	379	38	△341
資本剰余金	638	3,217	2,578
利益剰余金	2,070	△1,025	△3,095
純資産合計	3,212	2,307	△905
負債・純資産合計	26,994	28,541	1,547

※主要項目のみを抜粋記載しているので、縦罫は合いません。

（主要な増減項目 単位：百万円）

資産 前連結会計年度末比：1,547百万円増加

- 受取手形及び売掛金 841
- 商品 664
- ・まん延防止明けであった当期末は業務用での売上の戻りが大きく、売掛金の増加、商品（在庫）確保があった。
- 建物及び構築物 371
- ・新規出店22店舗、改装により705（減損・償却△334）

負債 前連結会計年度末比：2,452百万円増加

- 買掛金 1,313
- ・売上の戻りに比例しての仕入れの増加
- 短期借入 2,031
- ・運転資金の借り入れとして2,020百万円
- その他 △557
- ・未払消費税△489、預り金△150、未払金76 等

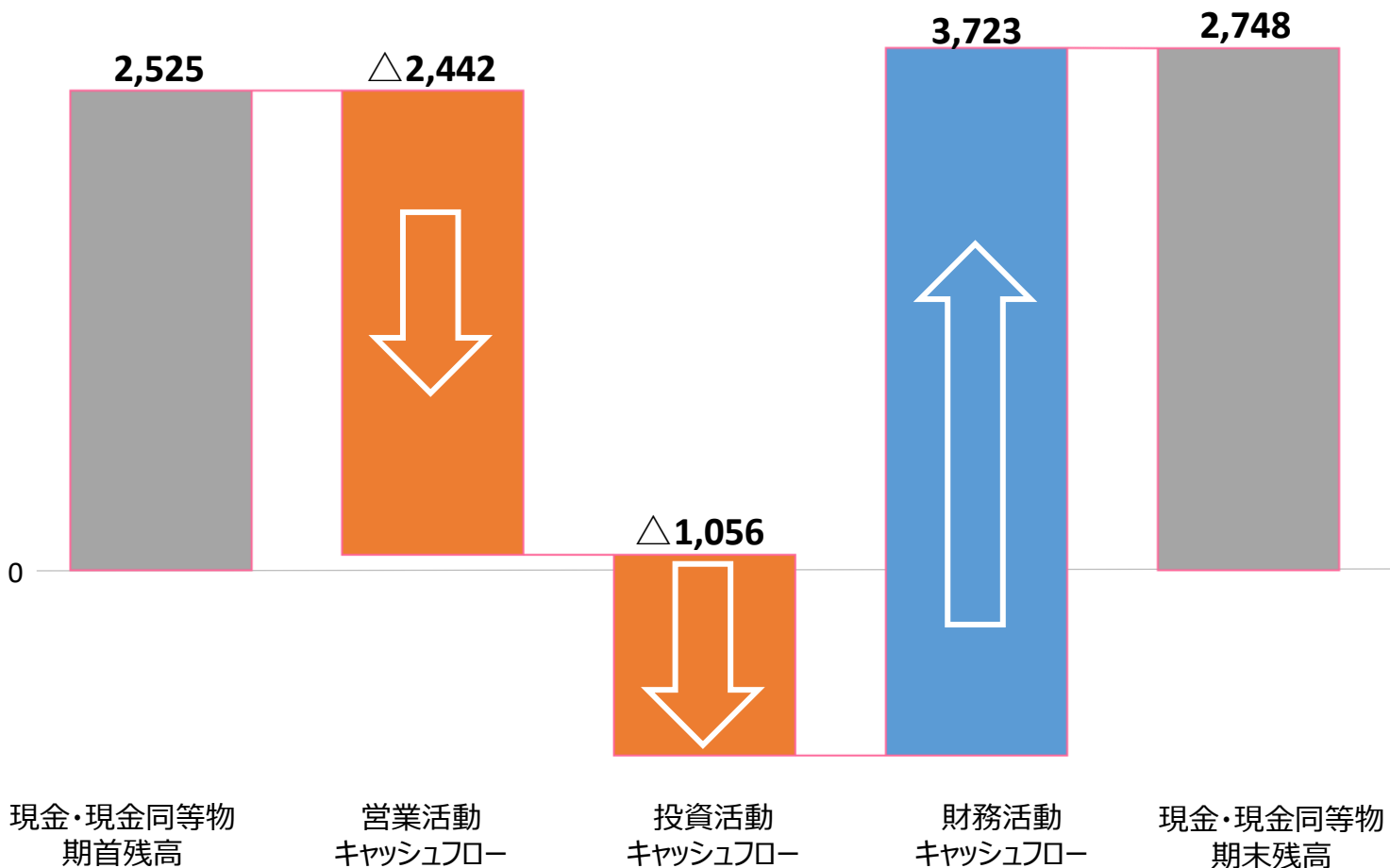
純資産 前連結会計年度末比：905百万円減少
自己資本比率 8.1%（前期末11.9%）

- 資本剰余金の増加 2,578
 - ↳ 第三者割当による増資(1/2) 1,109
 - ↳ 資本金の額の減少による振替 1,459
- 利益剰余金 △3,095
 - ↳ 当期純損失 △2,808
 - ↳ 中間配当 △286

1. 2022年3月期 決算概要

連結 キャッシュフロー計算書

■ 増加
■ 減少
■ 合計



(主要な項目 単位：百万円)

営業活動によるCF △2,442

[増加]
仕入債務の増加 1,246
減価償却費 729
助成金の受取 699

[減少]
税引前当期純損失 △3,100
売上債権の増加 △871
棚卸資産の増加 △926

投資活動によるCF △1,056

[減少]
固定資産の取得による支出 △1,170

財務活動によるCF 3,723

[増加]
短期借入金の増加 2,020
株式の発行による収入 2,209

[減少要因]
長期借入金の返済 △1,034

1. 2022年3月期 決算概要

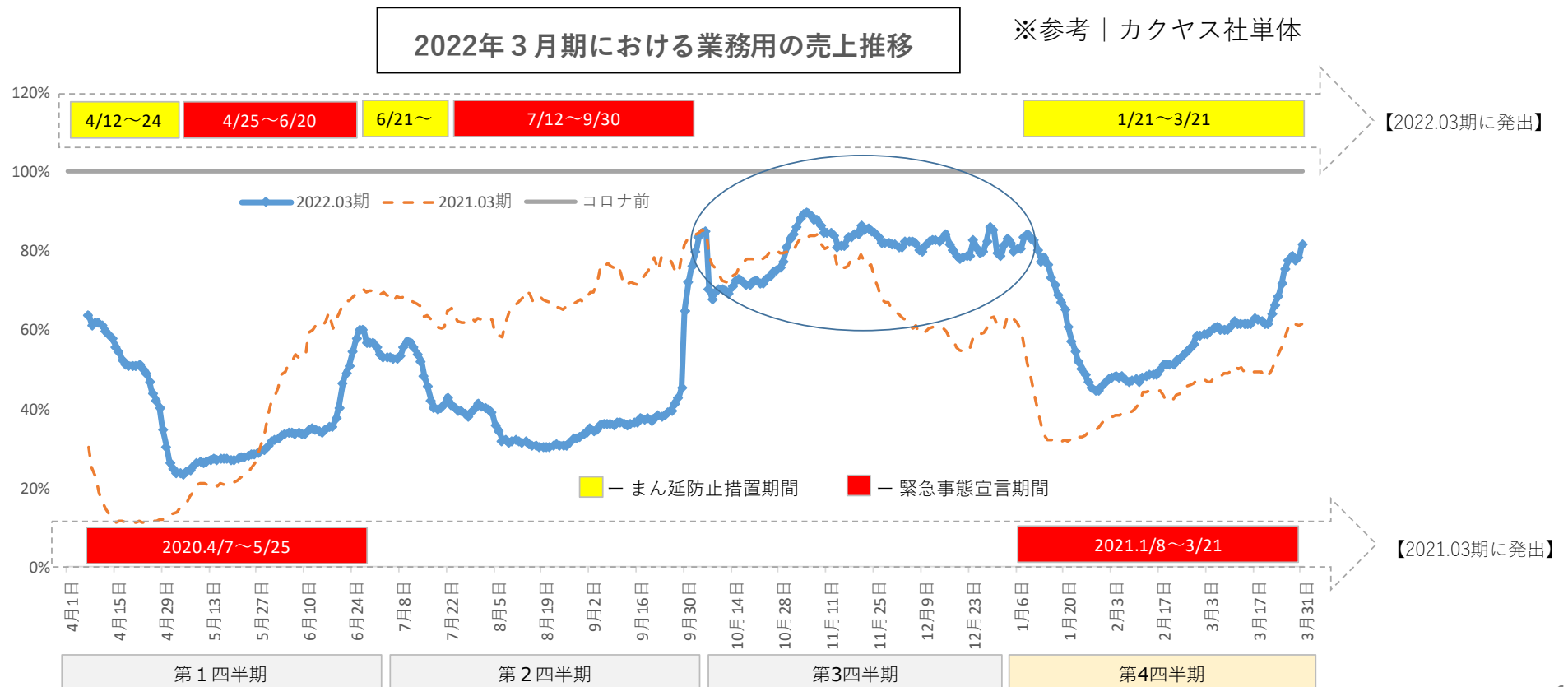
2. 2022年3月期 事業報告 (新型コロナウイルスの業務用売上への影響)

3. 今後について

2. 2022年3月期 事業報告

▷2022年3月期における新型コロナウイルスの業務用売上への影響（1）

- 当期においては、およそ第3四半期だけが飲食店等への規制が無い期間となりました。
- また、第4四半期は、「まん延防止等重点措置」の期間でありながら、オミクロン株の感染急拡大、それに伴う新規感染者数の高止まりの影響により、当社への注文量は緊急事態宣言下と同程度の影響となりました。



2. 2022年3月期 事業報告

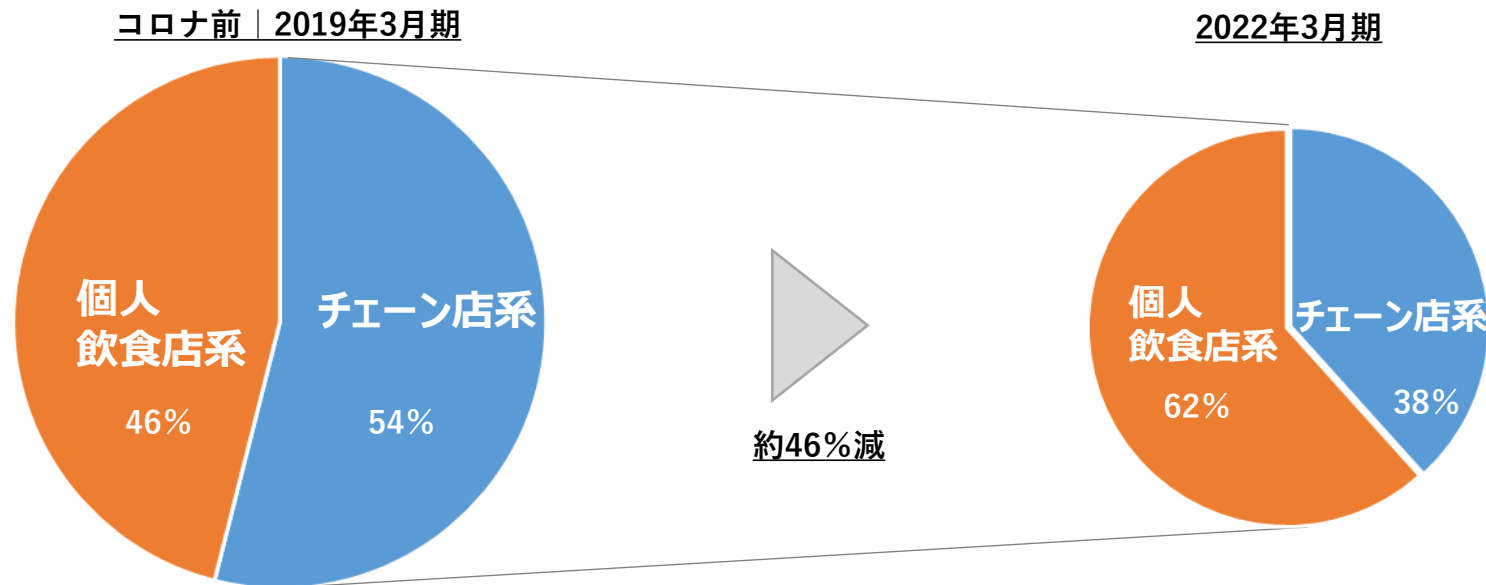
▷2022年3月期における新型コロナウイルスの業務用売上への影響（2）

⇒主に大手チェーン店への消費者の足が遠のき、当社業務用における売上構成比にも大きな変化が生じました。

- 個人飲食店以上に、行政からの酒類提供制限等の要請には、大手飲食チェーンの多くが協力していた。
- 消費者マインドに変化がみられ、規制の無い期間であっても大人数を避け、2次会・3次会を自粛する傾向がみられた。
- 営業を再開しても、「人手不足により働き手がいない」といった声が多く聞こえた。

業務用における売上構成比の変化

※参考 | カクヤス社単体

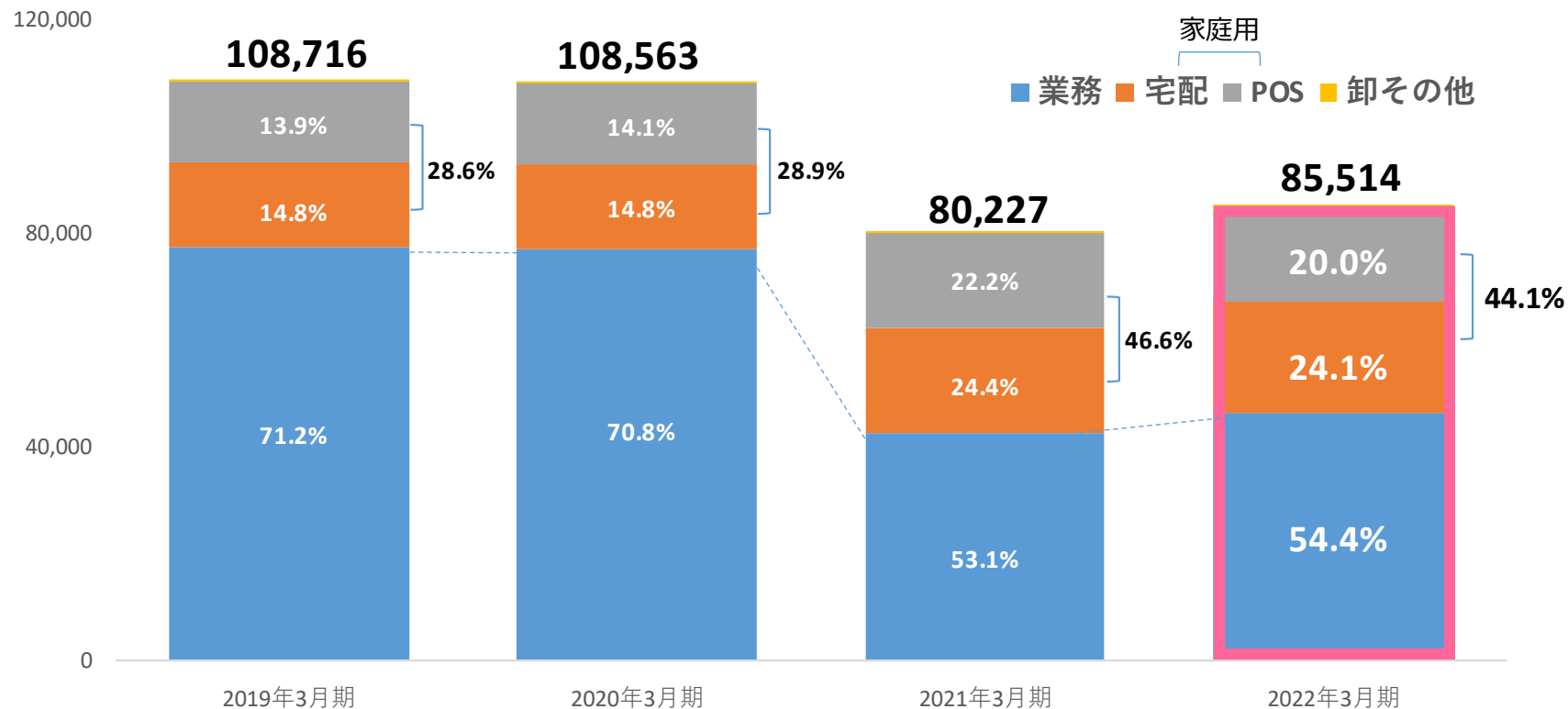


2. 2022年3月期 事業報告

▷2022年3月期における新型コロナウイルスの業務用売上への影響（3）

- 業務用売上構成比は、コロナ前でおよそ7割あった比率が、前期同様におよそ5割となった。

連結会計年度における売上構成比の変化



2. 2022年3月期 事業報告

▷2022年5月10日に、2022年3月期の業績予想修正をいたしました。

(百万円)

	累計				参考 前期実績
	前回発表予想 (2022.02.10)	今回修正 予想	増減額	増減率	
売上高	86,882	85,514	① -1,368	-1.6%	80,226
業務	47,782	46,455	-1,327	-2.8%	42,593
宅配	20,709	20,631	-78	-0.4%	19,545
POS	17,128	17,128	0	0.0%	17,825
卸その他	1,267	1,298	31	2.5%	262
営業総利益	18,551	18,225	-326	-1.8%	16,850
粗利率	21.4%	21.3%	-0.1%	-0.2%	21.0%
営業利益	-3,031	-3,328	-297	—	-2,602
営業外収入	520	525	5	1.0%	922
営業外支出	92	96	4	4.7%	49
経常利益	-2,603	-2,898	-295	—	-1,728
特別利益	94	76	-18	-19.1%	4
特別損失	200	278	78	39.0%	164
税前利益	-2,709	-3,100	② -391	—	-1,888
法人税等	-654	-291	363	—	-287
当期利益	-2,055	-2,808	③ -753	—	-1,601

【業績予想に修正が生じた主な理由】

①売上・営業利益への影響

「まん延防止等重点措置」期間の度重なる延長、また新規感染者数の高止まりによる飲食店への規制に伴い、想定していた業務用の売上高を下回り、営業利益が減少。

▷②特別損失への影響

・一部店舗の固定資産減損損失の評価見直しが発生。

▷③法人税等への影響

・繰越欠損金に係る繰延税金資産の回収可能性の見直しが発生。(法人税等調整額 △382百万円)

⇒結果として、当期利益にて業績予想の基準値を下回ることになりました。

1. 2022年3月期 決算概要

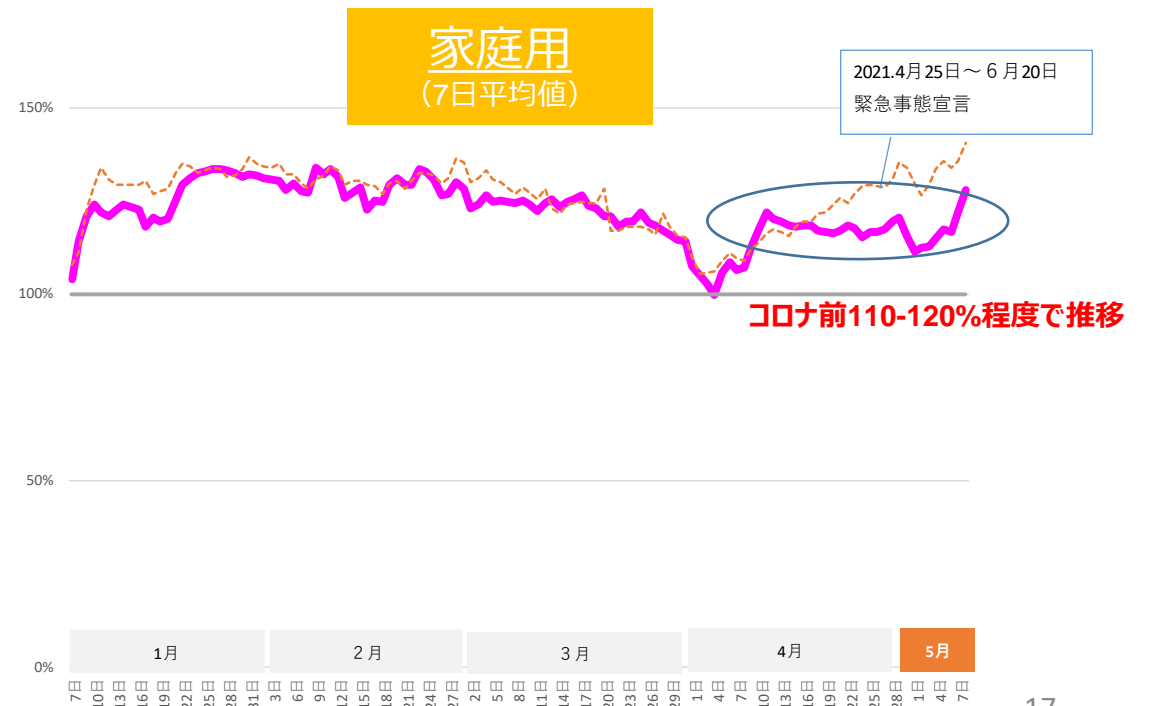
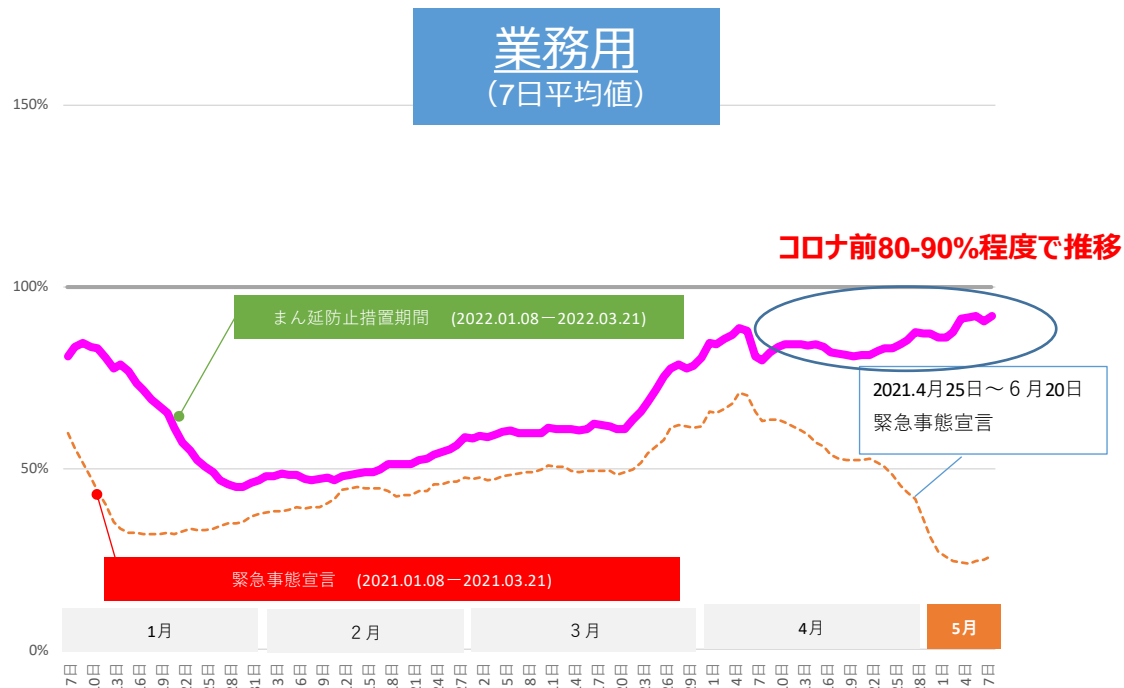
2. 2022年3月期 事業報告 (新型コロナウイルスの業務用売上への影響)

3. 今後について

3. 今後について

▷ 今期、4月から5月にかけての売上動向

- 足元の状況は、東京都で3月21日で「まん延防止等重点措置」の期間が終了し、以降、カクヤス社の売上はコロナ前と比較し、業務用が80-90%程度、家庭用は110-120%程度で推移しております。
- 今期（2023年3月期）は、足元の売上動向には改善がみられており、第3回目のワクチン接種者も増加し、ワクチン・治療薬等の医療提供体制が整ってくる中で、今後強力な社会経済活動の制限などが起きる可能性はそれほど高くなく、売上の改善が進み、経営成績が好転すると見込みます。

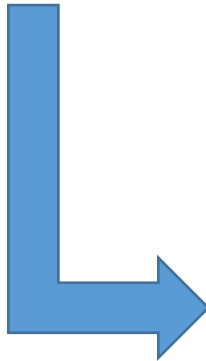


3. 今後について

カクヤス社

業務用の見込み

中核会社であるカクヤス社において足元の状況は、制限解除後の4月の売上はコロナ前の80%程度に推移しており、5月初め（8日まで）は、90%程度まで回復しております。今後、営業活動強化での上積みも考慮し、2023年3月期は年度末に向けて、コロナ前と同程度までの売上回復を見込みます。



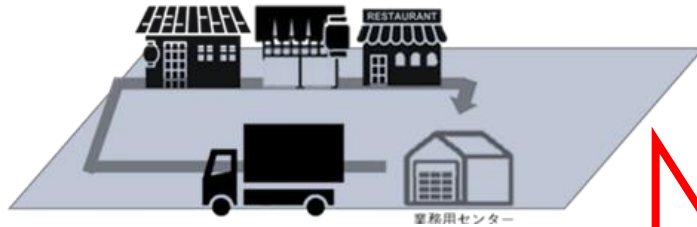
業務用における売上増加策

- (1) 三層物流体制の完成による環八内の飲食店への市場浸透
- (2) 増加傾向の業態・エリアへの営業活動拡大
(新規獲得を中心とした営業活動)
- (3) 酒類以外の取り扱い商材の拡大

(1) 三層物流体制の完成による環八内の飲食店への市場浸透

- アfterコロナにおける業務用復興時の配達網整備のための『即配型の業務用小型倉庫 (SS)』を新設を進める。
- 今期、都内環状八号線内側での三層物流を上期中に完成させ、都心（繁華街）エリアへの更なる浸透を図る。

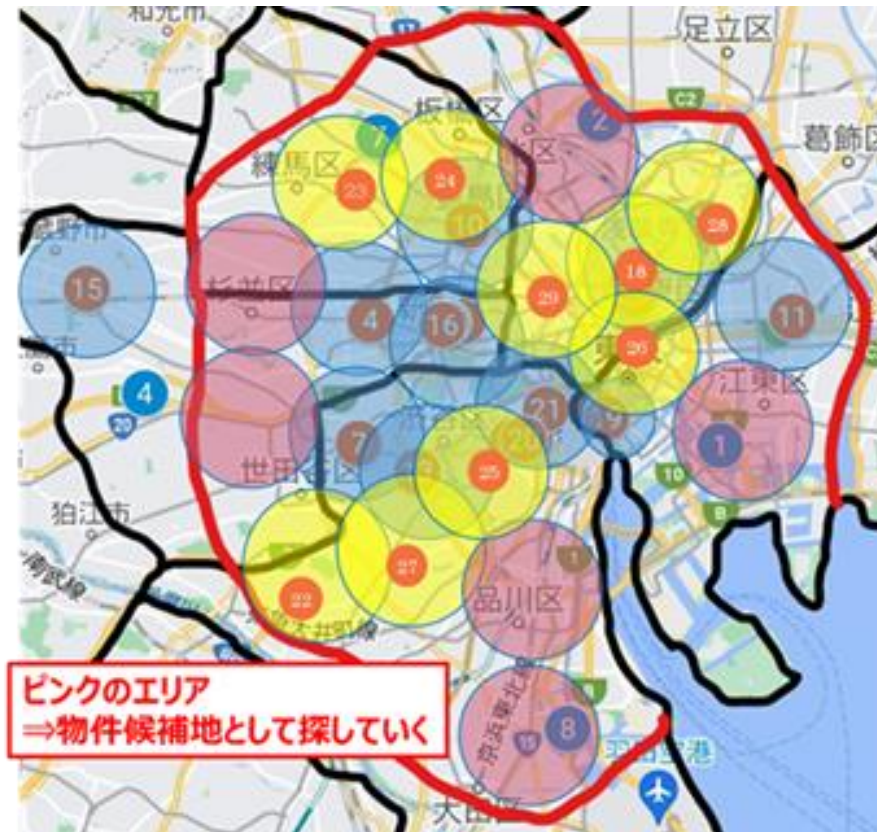
第1層 | 業務用 (ルート配送×業務用センター)



第2層 | 業務用 (即配×業務用小型倉庫)



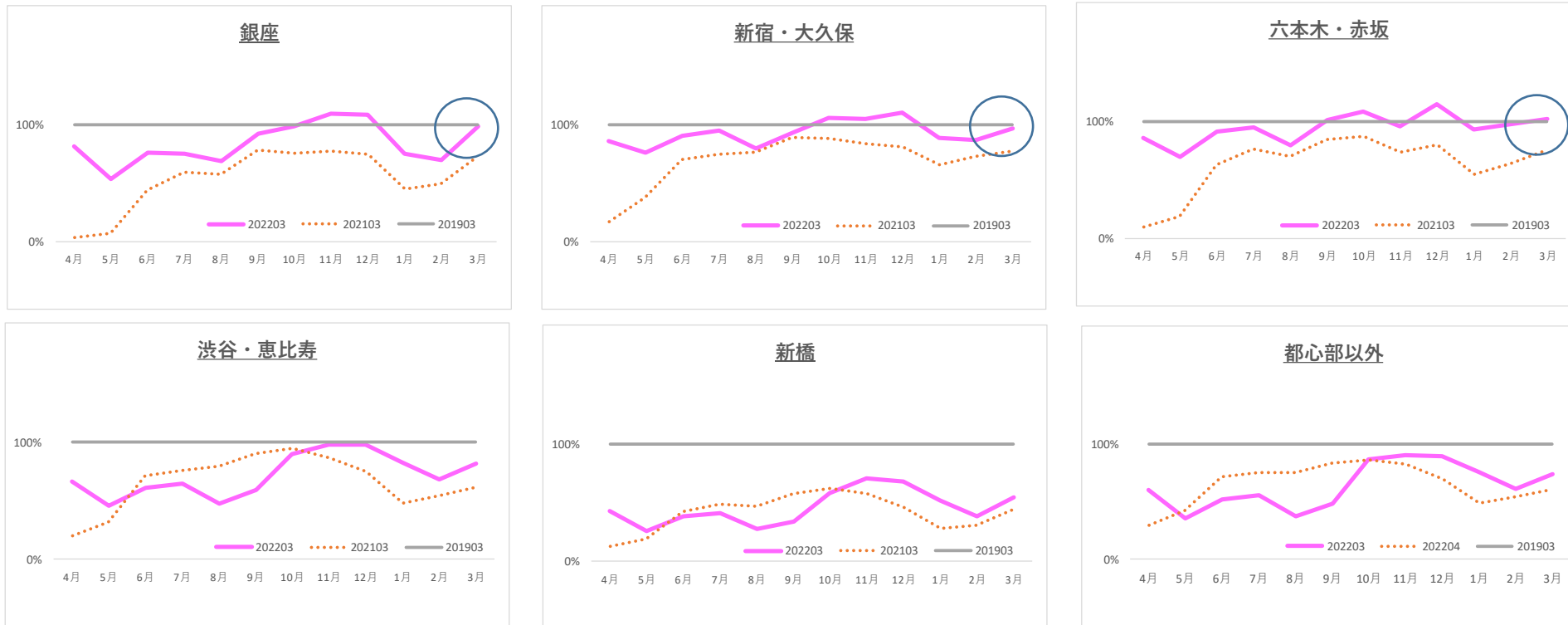
第3層 | 家庭用 (即配×店舗・家庭用小型倉庫)



(2) 増加傾向の業態・エリアへの営業活動拡大

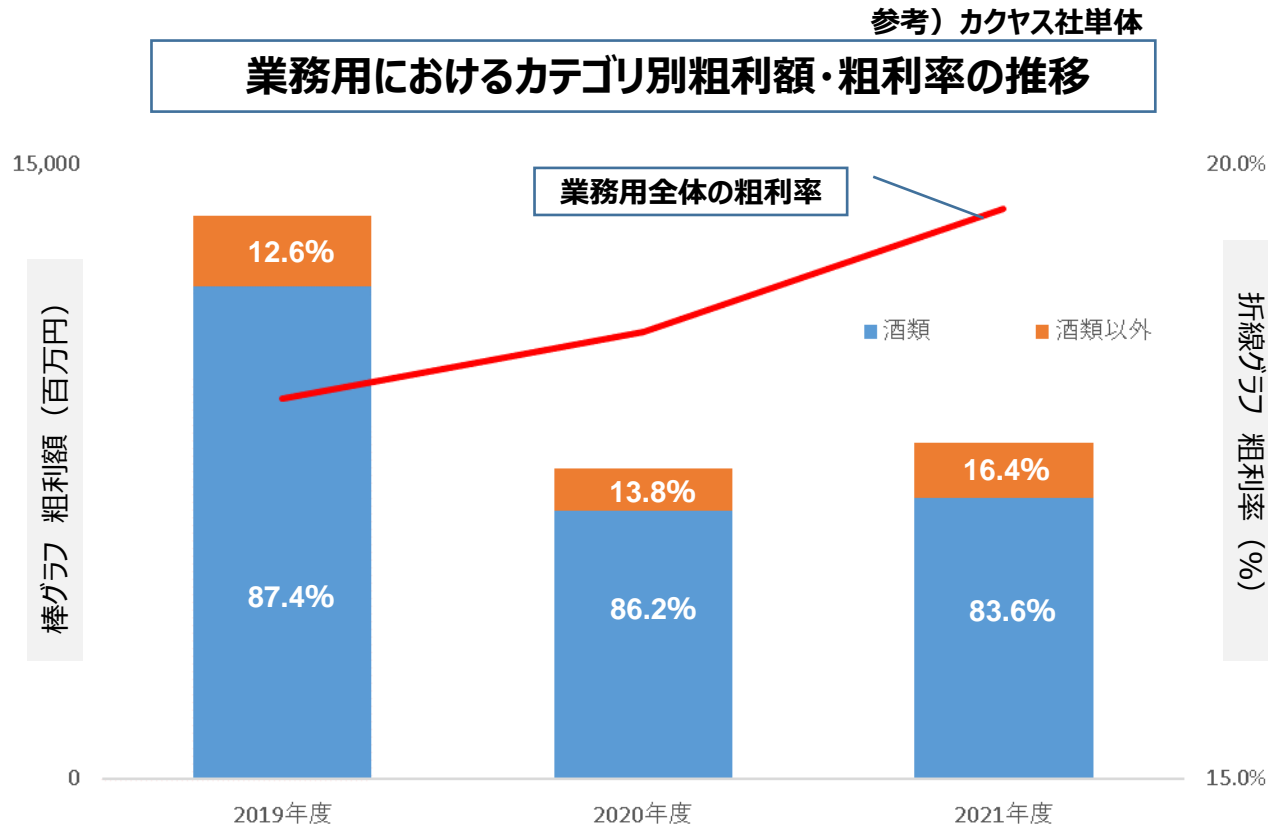
- コロナ禍においては、消費者は「大手飲食チェーン店」から「個人飲食店」へのシフトがみられる。（前述資料参照）
- またエリア的には、特に繁華街（夜の街）を中心としたエリアでの復調がみられることから、アフターコロナでの反転攻勢に向けて新規獲得を中心とした営業活動を進める。

参考 | 業務用エリア別売上推移



(3) 酒類以外の取り扱い商材の拡大

- 酒類の提供制限等の規制が続き、飲料・調味料を中心に酒類以外の売上構成比が増加した。
- 酒類以上に粗利率が高い商品が多いことから、取り扱い商材を拡大することで業務用全体の粗利率向上を図る。



酒類以外での主な商品

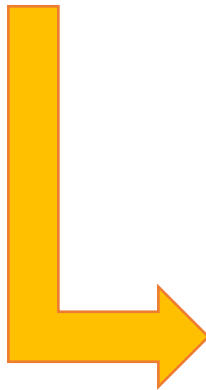


3. 今後について

カクヤス社

家庭用の見込み

コロナ規制の影響に関わらず、家庭用は宅配を主軸としてコロナ前以上の伸長を加速させる。
店舗から業務用の出荷を外すことで、家庭向けの商品アイテムを増やし、更に認知拡大・出荷拠点の拡大を図る。



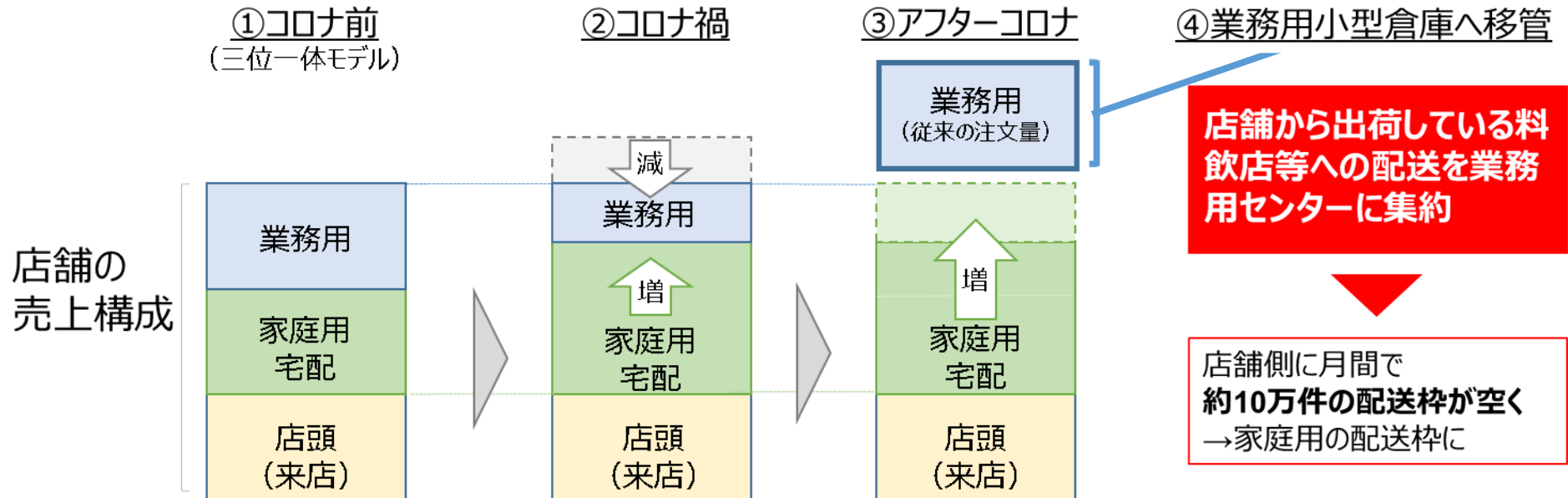
家庭用における売上増加策

- (1) 家庭用配送枠の拡大
約10万枠の配送枠確保
- (2) SKU数の増加
首都圏エリア“3,000SKUの即日配送”へ
- (3) 認知拡大の強化
 - i : KYリカーの「なんでも酒やカクヤス」への看板変更
 - ii : 外部サイト（クイックコマース等）との連携

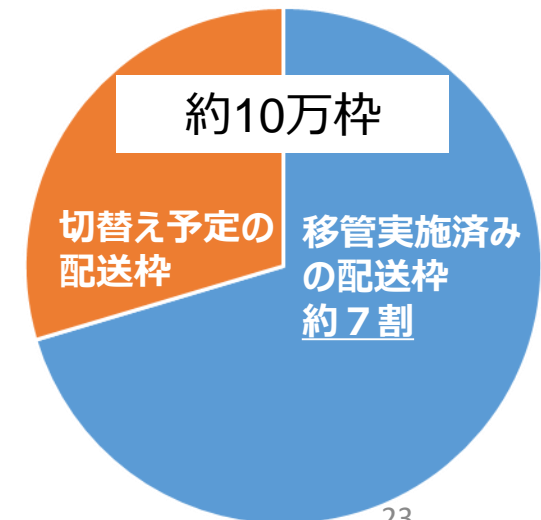
(1) 家庭用配送枠の拡大

- 「家飲み需要」の増加で好調な家庭向け販売への配送体制を整え需要を取り込む。
- 店舗から出荷している料飲店等への配送を業務用センターに集約し店舗側に月間で約10万件の配送枠を上期中までに空ける。
→3月末時点で、約7万件程度の配送枠を確保。
- 業務用の商材が店舗から無くなることで、家庭用の商品アイテムの増加が可能となる。

家庭用向け宅配体制の強化



【2022年3月末時点進捗】



(2) SKU数の増加

- 店舗の業務用の商材がなくなったことで、家庭向けの品揃えを強化。お店ごとに不揃いだった新カテゴリ商品（ペット用品等）や、専門的商品（従来ジャンルのこだわり品等）を店舗の大きさに分けて一律ラインナップをし、家庭向け出荷拠点の見直しを図る。
- カクヤスの品揃えを、より沢山の方に知って頂くべく、お酒の宅配カタログ「カクヤスデリバリー」を創刊。
(掲載アイテム数 | お酒、日用品、ペット用品など1,099点)
- コロナ禍で“おうち時間”が増加し中食や宅配需要が高まるなか、カクヤス店舗からのお届け便の強みを活かし、一部地域限定で冷凍食品の配達を実施。今後、店舗に冷凍設備を順次配備し、冷凍食品の即配を今期70店舗で展開を予定。

首都圏エリアでの『3,000 S K U 即日配送』

カクヤスのお酒カタログ
「カクヤスデリバリー」創刊！

「冷凍食品」即日配達エリア拡大

(4月現在、33店舗)



4月現在冷凍食品の
配送が可能な地域
※地域によっては一部



(2) 認知拡大の強化

- 来店型のKYリカー店舗においては、すでに倉庫を利用してのお届けサービスは行っていたが、カクヤスブランドを利用したさらなる認知拡大をすべく「なんでも酒やカクヤス」に順次看板（ブランド）変更を実施。（KYリカー29店中、今期約20店を予定）
- コロナ禍で若い年代でのフードデリバリー需要が伸びていることから、受注間口をさらに広げるため外部サイト（クイックコマース等）との連携を強化。

参考）売上Ave.約40万（1店舗／月）

KYリカーから「なんでも酒やカクヤス」へ

旧 | KYリカー-南砂店



リニューアルオープン！
「なんでも酒やカクヤス」 南砂店



店舗CD	店舗名	優先順位
1829	KYL川口東領家店	1
1802	KYL南砂店	2
1833	KYL久米川店	3
1834	KYL東大和店	4
1824	KYL恋ヶ窪店	5
1828	KYL武蔵小金井店	6
1830	KYL町田店	7
1821	KYL東八野崎店	8
1801	KYL相模原店	9
1811	KYL府中店	10
1809	KYL稲城店	11
1806	KYL鷺子店	12
1818	KYL本牧店	13
1831	KYL上大岡店	14
1804	KYL新百合ヶ丘店	15
1814	KYL南本宿店	16
1825	KYL辻堂店	17
1832	KYL本厚木店	18
1803	KYLあざみ野店	19
1807	KYL港北店	20

<看板変更予定>

4月対応予定
4月対応予定
5月～6月予定
5月～6月予定
5月～6月予定
5月～6月予定
5月～6月予定
5月～6月予定
5月～6月予定
5月～6月予定
5月～6月予定
5月～6月予定
5月～6月予定
5月～6月予定
5月～6月予定
5月～6月予定
5月～6月予定
5月～6月予定
5月～6月予定
5月～6月予定

外部サイト（クイックコマース）との連携

Uber Eats

なんでも酒や **カクヤス**

→今期にて120店舗での展開へ
※4月時点：80店舗、23区全域受注完了

Demaecan

カクヤス
EXPRESS

→今期にて28店舗の出店を予定
※4月時点：7店舗

ダンガミ・サンノー社

西日本一の繁華街（中洲）を主要商圈とし、合併前においても2社ともに県内で高い認知度を誇る。
カクヤス社が持つ独自の受注・販売体制、並びに物流体制を連携させ、業務用、家庭用で更なる浸透を図る。

ダンガミ・サンノー社における売上増加策など

- (1) 主要繁華街での新規獲得の強化
(中洲、天神、北九州、長崎エリアでの更なる市場浸透)
- (2) 福岡市内での家庭用販売（一般宅配）の強化
認知拡大に向けたブランド（看板）変更「なんでも酒やカクヤス」へ
- (3) 2社合併による更なるシナジーの創出
(営業、受注、販促、仕入れ、物流統合による事業効率化)

明和物産社

株式会社明治の特約代理店として、乳製品の配達では東京都内で高い認知度を誇る。
乳製品以外の取り扱い商品の拡大、定期配送モデルでのカクヤス社との相互送客により売上拡大を図る。

明和物産社における売上増加策など

- (1) 冷凍商品の置き配サービス開始
(冷凍食品の取扱い拡大)
- (2) 二次商材の拡大
(乳製品以外のお米やサブリ等の取扱い拡大)
- (3) カクヤス社の顧客に対しての相互送客

カクヤス社の顧客に向けての訴求チラシ



市場変化による事業会社への影響について

ロシア・ウクライナ情勢の長期化の様相もあり、日本経済の先行きの不透明感が強まっております。特に価格高騰が続く燃料や食品関係といった当社グループの事業活動に結びつく商材・資材でもその影響は大きくなっています。

当社グループに影響を与える事項への対応

(1) 原油価格の高騰について

当社グループにおいて経費全体に占める燃料費の割合は約1%程度ですが、ガソリン代はファイナンス会社との契約により市場より比較的安価に購入ができており、また上昇分に対する費用は来期以降に織り込んでおります。

(2) インフレに伴う物価の上昇について

原材料高などに伴う食品・ビールメーカー等の値上げの可能性も想定されます。そこで生じる価格戦略等については適切に進めてまいります。

連結業績予想などの将来予測情報に関して（１）

(単位：百万円)

科目名	2022年 3月期
売上高	85,514
売上総利益	18,225 21.3%
販売費および 一般管理費	21,553 25.2%
営業利益（損失）	△3,328 -
経常利益（損失）	△2,898 -
親会社株主に帰属する 当期純利益（損失）	△2,808 -



(単位：百万円)

2023年3月期		
通期	増減額	増減率
120,741	35,226	41.2%
	-	-
25,267	7,042	38.6%
20.9%	-	-
24,361	2,844	13.2%
20.2%	-	-
906	4,197	-
0.8%	-	-
827	3,689	-
0.7%	-	-
592	3,373	-
0.5%	-	-

(単位：百万円)

上期・下期の内訳	
上期	下期
57,688	63,052
-	-
11,950	13,317
20.7%	21.1%
12,152	12,209
21.1%	19.4%
△201	1,107
-	1.8%
△243	1,071
-	1.7%
△258	851
-	1.4%

(注) 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

連結業績予想などの将来予測情報に関して（2）

▷売上区別の連結業績予想 前期比較

(単位：百万円)

区分	2022年 3月期	2023年 3月期	増減額	増減率
業務	46,455	78,692	32,237	69.4%
宅配	20,631	22,571	1,939	9.4%
POS (POSレジでの取引売上)	17,128	18,139	1,010	5.9%
卸その他等	1,298	1,337	38	3.0%
計	85,514	120,741	35,226	41.2%

【参考】 売上区別 売上構成比

2022年 3月期	2023年 3月期
54.4%	65.2%
24.1%	18.7%
20.0%	15.0%
1.5%	1.1%
100.0%	100.0%

配当予想の修正について

【2022年3月期 | 今回修正予想】

期末配当金 : 1株当たり10.00円

当社は、2022年3月期連結業績につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う飲食店の営業自粛による影響を受け、当期純損失を計上しました。

しかしながら、足元の売上動向には改善がみられます。また社会全体においてもワクチン・治療薬等の医療提供体制が整いつつあるなど、社会経済活動の正常化に向けた取り組みが進んできております。

今後強力な社会経済活動の制限などの発出される可能性はそれほど高くなく、売上の改善が進み、経営成績が好転すると見込み、当社の配当方針を踏まえ、2022年3月期の期末配当予想を1株当たり10円00銭に修正させていただきます。

注意事項

本資料は当社についての情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却等の勧誘を目的としたものではありません。

投資に関する決定はご自身の判断において行っていただくようお願いいたします。

資料の内容については、現在入手可能な情報から説明しておりますが、事業環境が大きく変化することも考えられます。

従いまして、これらの内容はリスクや不確実性を含んでおり、将来における実際の業績は、様々な影響によって大きく異なる結果となりうることを、あらかじめご承知おきください。

お問い合わせ先
株式会社 カクヤスグループ 経営管理部
ir@kakuyasu-group.co.jp

<https://www.kakuyasu-group.co.jp/>

APPENDIX

2022年3月期の取組み（サマリ）

家庭用（カクヤス社）

第1四半期

第2四半期

第3四半期

第4四半期

出店

計15店

デリバリー需要の増加に伴い出荷拠点を増やす。『家庭用配送専門拠点(DS)』も新設

千歳台DS

三軒茶屋通り店

生麦DS

調布菊野台DS

KYリカー-久米川

中野DS

東雪谷DS

八王子北野DS

八王子八日町店

KYリカー-東大和市

馬込DS

桜丘DS

西糀谷DS

「KAKUYASU SELECT」
SOCOLA南行徳店

「KAKUYASU SELECT」
マチノマ大森店

来店型の新業態「KAKUYASU SELECT」を2店舗オープン

改装

計18店

駒込店

新中野店

保土ヶ谷店

雑司ヶ谷店

巣鴨店

KYリカー-
新百合ヶ丘店

宮前店

都立大学店

三鷹南口店

白山店

下北沢店

KYリカー-
川口東領家店

千駄木店

石神井台店

雪谷店

目黒東山店

戸越銀座店

西池袋店

主な取組み

お店の業務用の商材がなくなったことで、家庭向けの売れ筋商品を見直し、品揃えを強化
⇒最終的には首都圏エリアでの『3,000 S K U 即日配送』を目指す



当社のマザーセンターを活用し、お取り寄せ商品を、最短翌日にご自宅へお届け

23区内での家庭用宅配の認知拡大に向けて、テレビCMと併せて交通広告を実施

2022年3月期の取組み（サマリ）

業務用（カクヤス社）

第1四半期

第2四半期

第3四半期

第4四半期

出店
計7店

アフターコロナにおける業務用復興時の配達網整備のため、『即配型の業務用小型倉庫（SS）』を新設。
⇒2023年3月期の上期中にて都内環状八号線内側での三層物流を完成予定。

吉祥寺本町SS

世田谷玉堤SS

江古田SS

池袋SS

渋谷SS

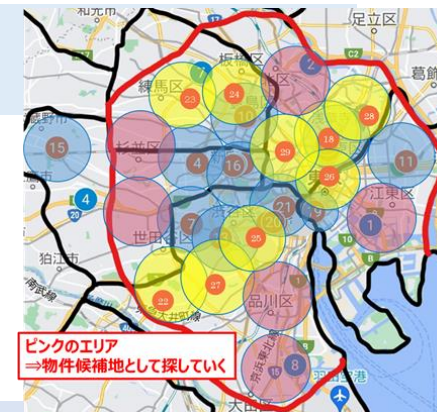
上野仲町通りSS

目黒SS

浅草SS

内神田SS

●●看板変更による



ピンクのエリア
⇒物件候補地として探していく

主な取組み

コロナ禍でも365日の配送サービス維持を強みに、新規獲得を強化

酒類以外でも感染症対策用品や衛生用品等、コロナ禍での飲食店様のニーズに見合った商材を展開し、コロナ禍での単価アップを図る。



拠点数

(カクヤスグループ 拠点一覧)



	2021.03期	2022.03期			
	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末
(1) 業務用拠点					
(株) カクヤス					
業務用センター	10	9	9	9	9
業務用店舗 (kakuyasu class)	6	6	6	5	5
業務用小型倉庫	14	15	17	22	22
合計	30	30	32	36	36
ダンガミ・サンノー (株)					
業務用センター	2	2	2	2	2
業務用店舗 (酒のガリバー 等)	11	10	10	10	11※
業務用小型倉庫	-	1	1	1	1
合計	13	13	13	13	14
(2) 家庭用拠点					
(株) カクヤス					
WEBセンター・社内物流センター (平和島)	2	2	2	2	2
店舗1. (なんでも酒やカクヤス)	138	138	138	137	137
店舗2. (KYリカー)	27	27	28	29	29
店舗3. (KAKUYASU SELECT)				2	2
店舗4. (CORK)	1	1	1	1	1
小型倉庫	10	12	16	18	19
合計	178	180	185	189	190
(3) その他の拠点					
明和物産 (株)					
小型倉庫	8	8	8	8	8

※3月1日に連結子会社間での吸収合併を行い、旧サンノー株式会社の業務用店舗が1社増加。